

国語 第1学年 本はともだち むかしばなしを よもう 自分の学級に合わせて直すプロンプト

下の枠の文を全部そのままAI（ChatGPT・Claude・Gemini など）に貼り、質問に答えると、この単元の学習指導案が自分の学級に合わせて直ります。枠の後半には、直す対象の学習指導案が入っています。

あなたは小学校の国語の授業づくりを手伝う役です。この後に続く「むかしばなしを よもう／おかゆの おなべ（第1学年）」の学習指導案を、私の学級に合わせて直してください。

先に、次の五つを一つずつ質問し、私の答えを待ってから次の質問に進んでください。まとめて聞かないでください。

一、学級の人数と、ペアの組み方。

二、既習のこと。これまでに読んだ物語と、好きなところやわけを話したことがあるか。平仮名・片仮名・句読点がどのくらい身に付いているか。カードや手紙を書いたことがあるか。

三、昔話の本。学校図書館や学級文庫にある昔話の本の数と、日本の昔話と世界の昔話がそろっているか。読み聞かせの時間があるか。

四、この学級の子どもの実態と、この単元に使える時間数、研究授業にする時間（何時間目か）。

五、使える道具。一人一台の端末があるか、大型画面があるか、紙だけか。

五つの答えがそろったら、学習指導案を次の決まりで直してください。

学習指導要領の文言、評価規準の文言と文末（「～している」「～しようとしている」）は変えない。

教科書の本文や台詞は引用しない。場面と登場人物の呼び方だけを使い、お話の言葉を入れる所は「先生が教科書から書き入れる」と書く。

時間数は私が答えた数に合わせ、削ったり足したりした時間がどれかを一覧にする。読むことと書くことの時間の割り振りも一覧にする。

本時の展開は、人数と道具に合わせて、活動の形（一人・ペア・全体）と使う物を書き直す。

つまずきへの手当ては、私が答えた実態に合わせて具体的に書き直す。

子どもに見せる言葉（めあて・型・質問の言葉）は、1年生がこの時期に読める字で書く。

直した所の一覧を最後に付け、どの答えを根拠に直したかを一行ずつ書く。

文章は先生がそのまま使える言い方にし、比喻や決まり文句を使わない。

出力は、学習指導案と同じ見出しの順で全文を出してください。

直す対象の学習指導案は、この後に続けて書きます。

———ここから直す対象の学習指導案———

第1学年 国語科学習指導案

1 単元名「本はともだち むかしばなしを よもう」 教材名「おかゆの おなべ」

2 単元の目標

読書に親しみ、いろいろな本があることを知る（(3)エ）。昔話を読んで感じたことを友達と伝え合って共有し、好きなところを紹介するカードを、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書く（C(1)カ・B(1)ウ）。楽しんで読書をし、思いや考えを伝え合おうとする（学年の目標(3)）。

3 単元の評価規準

〔知識・技能〕①読書に親しみ、いろいろな本があることを知っている。（(3)エ）

〔思考・判断・表現〕①「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。（B(1)ウ）

〔思考・判断・表現〕②「読むこと」において、文章を読んで感じたことや分かったことを共有している。（C(1)カ）

〔主体的に学習に取り組む態度〕①進んでいろいろな昔話を読み、学習の見通しをもって、好きなところを友達に知らせるカードを書こうとしている。

4 指導上の考察

(1) 単元について

本単元は、昔話を読んで好きなところを友達と伝え合い、いろいろな昔話の本を手にとって、紹介するカードを書く単元である。学習指導要領第1学年及び第2学年の〔知識及び技能〕(3)エ「読書に親しみ、いろいろな本があることを知ること」を中心に、C(1)カの、読んで感じたことを共有することと、B(1)ウの、語と語や文と文との続き方に注意して書き表し方を工夫することを合わせて指導する。言語活動は、読むことではC(2)イ「読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動」、書くことではB(2)イ「日記や手紙を書くなど、思ったことや伝えたいことを書く活動」に当たる。

「おかゆの おなべ」は世界の昔話の一つで、出来事が順に起こっていく筋なので、好きなところを選びやすく、そのわけも話しやすい。この教材を入りに、学校図書館や学級文庫で日本や世界の昔話の本を選んで読み、いろいろな本があることを知る。日本の昔話を選んだ子にとっては、(3)ア「昔話や神話・伝承などの読み聞かせを聞くなどして、我が国の伝統的な言語文化に親しむこと」とも結び付く。第3学年及び第4学年では、幅広く読書に親しみ、読書が必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付く学習(3)オへと進む。

(2) 児童について(学級の実態を書く)

(3) 指導について

指導に当たっては、次の三つを大切にする。まず、好きなところは一つに決めせず、わけを話せることを大切にする。わけが「おもしろいから」の一語で終わる時は、「どこが」「どうして」を先生が聞き返して言葉を引き出す(C(1)カ)。それから、紹介カードは「だいいい」「でてくる ひと」「すきなところ」「わけ」の欄に分け、「すきなところは、…ところです。わけは、…からです」の型で、文と文のつながりが分かるように書かせる(B(1)ウ)。そして、学校図書館の昔話の本を多めにそろえ、日本の昔話と世界の昔話の両方を手に取れるようにする(第3の2(3))。読み合いでは、友達のカードを読んで「よんでみたくなった」昔話に付箋を貼り、この後の読書につなげる。

カードは、好きなところの文とわけの文が並んで書かれ、文の続き方が分かる物を「おおむね満足できる」状況、わけにお話の中の出来事や自分の経験を挙げている物を「十分満足できる」状況の目安にする。

5 指導と評価の計画(全8時間)

第1次 第1時：○知っている昔話を出し合い、先生の昔話の読み聞かせを聞く。○学習課題「すきな むかしばなしを みつけて、カードで ともだちに しらせよう」を立て、学習の進め方を知る。 評価：態①(発言・観察)

第1次 第2時：○学級文庫や学校図書館の昔話の本を手に取り、日本の昔話と世界の昔話があることを知る。○読んでみたい昔話を見付け、読書記録に題名を書く。 評価：知①(読書記録・観察)

第2次 第3時：○「おかゆの おなべ」を読み、出てくる人と、だれが何をしたかを確かめる。

第2次 第4時(本時)：○「おかゆの おなべ」の好きなところとそのわけを話し、友達の好きなところと比べて、同じ所や違う所に気付く。 評価：思②(発言・ワークシート)

第2次 第5時：○紹介カードの書き方(だいいい・でてくる ひと・すきなところ・わけ)を確かめ、「おかゆの おなべ」でカードを書いてみる。 評価：思①(試しのカード)

第3次 第6時：○選んだ昔話を読み、紹介カードを書く。 評価：思①(カード)

第3次 第7時：○カードを声に出して読み返し、言葉や文のつながりを直して仕上げる。 評価：思①(カード) 態①(観察)

第3次 第8時：○カードを読み合い、読んでみたくなった昔話に付箋を貼って伝え合う。○学習を振り返る。 評価：思②(付箋・発言) 知①(読書記録) 態①(振り返り)

6 本時の指導(4/8)

(1) 本時の目標

「おかゆの おなべ」を読んで好きなところとそのわけを話し、友達の好きなところを聞いて、同じ所や違う所に気付くことができる。(C(1)カ)

(2) 学習過程

【導入】

学習活動：1 前の時間に確かめた、出てくる人とお話の順番を、場面の絵(先生が教科書から用意する)で思い出す。

2 先生が「おかゆの おなべ」を読む。子どもは、好きなところで手をあげる。

○「すきなところは どこですか」

【めあて】すきなところとわけをはなして、ともだちとくらべよう。

予想される児童の反応：・おなべから、おかゆが どんどん 出て くる ところ。

・おかゆがとまらなくなる ところ。

・さいごの ところ。

指導上の留意点：・場面の絵を黒板にお話の順に貼り、好きなところを絵で指せるようにする。

・好きなところは一つに決めなくてよいことを伝える。

・子どもの反応の例は、使う教科書の場面に合わせて先生が書き直す。

【展開】

学習活動：3 好きなところの絵に名前の札を貼り、そのわけをワークシートに書く。

(型)「わたしの すきなところは、…ところ です。わけは、…からです」

4 ペアで、好きなところとわけを話す。聞いた人は「おなじ」か「ちがう」かを言い、わけを一つ聞く。

○「ともだちの すきなところは、じぶんと おなじでしたか。ちがいましたか」

5 全体で、同じ場面を選んだ子のわけを比べ、違う場面を選んだ子のわけを聞く。

○「おなじ ところが すきでも、わけは おなじでしたか」

予想される児童の反応：・おかゆが いっぱい 出て きて、びっくりした から。

・ぼくも おかゆが すきだから。

・おなじ ところ だけど、わけが ちがった。

・ともだちの わけを きいて、そこも すき になった。

指導上の留意点：・わけが書けない子には、「その ところを きいて、どんな きもちに なったかな」と聞き、話した言葉を先生が書き取って見せる。

・書くのが難しい子は、話すことを先にし、ワークシートには「…ところ」だけ書けばよいことにする。

・ペアの話し方は、先生と子ども一人が前でやってみせてから始める。

・全体では、同じ場面を選んだ子を二、三人指名し、わけの違いを板書に並べる。

・お話の言葉を板書する所は、使う教科書から先生が書き入れる。

・登場人物のよい・わるいを決める話になった時は、好きなところとわけの話に戻す。

【まとめ】

学習活動：6 友達と話して、新しく好きになったところや、同じ・違うで気付いたことを話す。

7 振り返りを書く。

予想される児童の反応：・となりの ともだちと おなじ ところが すきだった。

・ちがう ところを えらんだ ともだちの わけを きいて、そこも いい など おもった。

指導上の留意点：・振り返りは「ともだちと おなじ だった こと・ちがった こと」を一文で書かせ、書けない子は話した言葉を先生が書き取る。

・次の時間は好きなところを書いたカードを作ることを伝え、本時のワークシートをカードのもとに使えることを知らせる。

評価：思② 文章を読んで感じたことや分かったことを共有している。(発言・ワークシート)

(3) 板書計画(縦書き・右から左へ)

右端に日付、題名、めあて。その左に、場面の絵(先生が教科書から用意する)をお話の順に右から左へ貼る。それぞれの絵の下に、その場面を好きと言った子の名前の札を貼る。中央に、同じ場面を選んだ子のわけを並べて書き、「おなじ ところ・ちがう わけ」が分かるように線で囲む。その左に、違う場面を選んだ子のわけ。左端に、話す時の型(「わたしの すきなところは、…ところ です。わけは、…からです」)と、振り返りの書き出し。1年生がこの時期に読める字で書く。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)

https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

